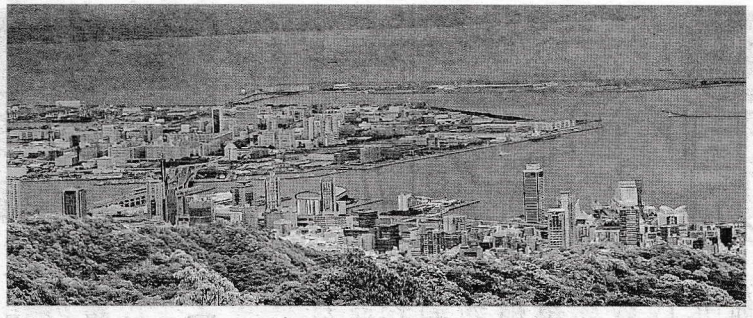
2025祭典
in神戸・ひょうご
石川康宏
実行委員長に聞く


▲神戸、山と海から　未来へ　希望の歌

▲石川康宏氏

「大人の文化」を率先して展開

（1面のつづき）

しかし、自民党はこの5年で選挙の得票を710万票も減らしており、維新も370万票減らしています。連立の内実は合計で1080万票も支持を減らした落ち目政党同士のもたれあいで、決して強い政権ではありません。「定数削減より消費税減税」「軍拡ファーストよりくらしファースト」と切実な願いを正面からぶつけていけば、政治の方向転換は十分に可能だと思います。

「私のくらしを第一に」切なる願いの「反映」

――外国人の排斥、新憲法を、という参政党のような政党も出てきましたね。

石川　あれも極右・排外主義の支持者が急に増えた結果ではありません。アベ信者として自民党を応援していた「岩盤保守」が、わずかではあっても世論に引きずられる自民党を見限って、国民民主や参政党の支援に流れたというのが実態です。

ただし、彼らはリベラル・左翼よりもSNSに長けており、それでかなりの若者を引きつけることに成功しました。それが彼らを大きく見せています。

しかし、若者が「日本人ファースト」のキャッチコピーに引かれたのは、多くが「私のくらしを第一に」というくらし応援への期待を込めてのことで、排外主義に同意したからではありません。NHKの世論調査によると10月の参政党の支持率は9月の半分以下に急落しており、誰が本当の仲間なのかをめぐる若者の政治の模索は今もつづいています。模索の最大の原動力は先の見えないつらい暮らしからの脱出です。SNSも大いに活用して消費税減税、賃上げ、社会保障など「くらしファースト」の政治の可能性を伝えていけば、状況は大きく変わっていくでしょう。

社会の課題に意欲的に挑戦を

――最後にうたごえ運動への期待、注文などをお願いします。

石川　実行委員長を引き受けてから「うたごえ運動」の歴史にかんする本をまとめて読みました。そこに描かれた戦後の運動スタート時の熱気を知ると、現代のうたごえにはもっと社会運動の前面に出てほしいと言いたくなります。仲間でうたごえを楽しむだけでなく、より広く各分野でたたかう友人たちを励まして、時々の社会の課題にも意欲をもって新しい挑戦をしてほしい。

たとえばあいう知事選挙の結果、兵庫の県民世論はいまだに大きく二つにわかれています。ここから一歩前に進むには、双方が互いを尊重しながら話し合う「大人の文化」が必要ですが、そういう「大人の兵庫」をよびかける取り組みをうたごえ運動が率先して展開するといったぐあいに。

先日、愛知県で行なわれた日本平和大会はオープニングが「ぞうれっしゃがやってきた」の演奏で、その夜のうたごえ交流会には100人を超える人が集まりました。笑顔と活気にあふれる楽しい時間でしたが、その力をもっと外に向けて発揮してほしい。

集まったみなさんからは「神戸に行きますよ」とたくさん声がかかりましたが、神戸・ひょうごの祭典をきっかけに、全国で、社会の全体を聴き手として平和や個人の尊厳を高らかに歌う取り組みを創造的に進めてほしいと思います。心から期待しています。

――ありがとうございました。ひきつづき祭典当日へ、よろしくお願いいたします。

▲2025日本平和大会開幕演奏「ぞう…」

2025祭典
田中嘉治
企画委員長

夢を創り、追い求め、いざ開幕へ

神戸で初めて日本のうたごえ祭典を開いた1990年。あれから35年の歳月を経て、再び神戸の地で祭典の幕が上がろうとしています。地元実行委員会は既に最終盤の準備に追われていますが、とりわけ大音チケット組織の拡大が現下の急務となっています。

祭典企画の柱、3つのテーマ（大震災30年、非核「神戸方式」50年、被爆・戦後80年）については、単に記念すべき節目という理由で浮上したのではなく、それらがいま極めて危うい状況に置かれていることへの警鐘を歌で鳴らす絶好機と捉える意味合いがあったからです。

警鐘①、震災30年の教訓生かされず。日本と台湾の被災地を比べても復旧・復興へのスピードや質に大きな差があり、台湾の避難所にはプライバシーに配慮したテントや温水シャワー、無料Wi-Fiが提供されたといわれています。日本では国や自治体からの復興財源の捻出に大きな問題があり、人間と街の真の復興が成っているかの検証の機会にせねば。

警鐘②、半世紀にわたり続いてきた、非核「神戸方式」は本年3月、ついに米軍艦船が非核証明書なしで入港。ある自民党市議は「米軍と自衛隊が連携を深め、抑止力を効果的に働かせる上でも非核神戸方式を形骸化させる」と。

警鐘③、トランプ米大統領は米国が33年間停止してきた核実験を「戦争省」（国防総省）に指示。再開するならば、世界平和への深刻な脅威となり、国際社会が懸命にとりくんでいる「核兵器のない世界」への努力に対するきわめて重大な逆行となる暴言です。被爆80年を「核廃絶」の願いを世界に拡げる機会にせねば。

祭典の基本ロジックはこの3テーマですが、感覚的に祭典のイメージアップの力になったのが「ジーライオンアリーナ神戸」という風刺を織り込んでどんなドラマでも描く。なんでも描（か）けるから〝萬画〟を提唱した。音楽は人々の心の表現であり意思の伝達だ。漫画も同様に時代の産物として〝人間を描く〟もの。歌

1252

うたごえ祭典の準備…明日の

明日歌うときどんな服装

そして当日……。

それも白黒には違いないが……

2025日本のうたごえ祭典〈11月22日〉

兵庫五国アレ

少し遅めの開花だろう